



※1 遺伝性甲状腺髄様癌の場合には、コンパニオン診断によるRET遺伝子変異の確認は行わずにセルペルカチニブを使用できる

※2 各種コンパニオン診断及びがん遺伝子パネル検査に時間を要することで、患者に不利益(腫瘍増大による全身状態悪化等)を被ることが予想される場合には、MKIによる治療の先行を考慮する

※3 オンコマインDxTTマルチCDx

※4 オンコマインDxTTマルチCDxもしくはMEBGENTM BRAF3 キット